

平成24年6月17日
今週のベストショット



雁レク7番球場 雁ノ巣ライナーズ 対 新町ウインズ戦
ウインズ打線を相手に内野安打3本、無死四球完封で勝利したライナーズ樽野拓也投手。
(写真：奈多フェニックス 今林英二)

青松園A

奈多サンデーズ (5勝0敗1分) 5 3 2 1 2 1 3 塚本○、木下ー荒口

レッドサンデーズ (2勝4敗0分) 0 0 0 0 1 1 土師●、嶋村ー三船

HR：荒口、野々下(奈多サ) 2BH：野々下(奈多サ)

2勝3敗と現状から抜け出したいレッドサンデーズと現在3位と負けられない奈多サンデーズの兄弟チーム対決となった。レッドサンデーズは今季1勝目を上げたい土師投手、奈多サンデーズは今季4イニングを投じている塚本投手を登板させた。奈多サンデーズは初回、いきなり土師投手を攻め立てた。1番木下選手がレフト前で出塁すると2番野田選手が送りバント。その後、5連続安打で奈多サンデーズは5点を先取。二回、奈多サンデーズは2番野田選手、3番江口選手がレフト前で出塁すると、6番荒口選手がレフト横を抜ける3ランホームランで3点を追加。二回裏レッドサンデーズは嶋村選手がファースト強襲の内野安打を放つが後が続かず、無得点。三回からレッドサンデーズは若い嶋村選手をマウンドに送ったが、奈多サンデーズは三回に2点、四回に1点と得点を重ね、五回には野々下選手が、打った瞬間にホームランと分かる特大のライトオーバーホームランで2点を挙げた。五回裏レッドサンデーズは、塚本投手から代わった木下投手からエラー絡みで1得点を挙げるがそこまでだった。終わってみれば、奈多サンデーズは16安打、レッドサンデーズは1安打という一方的な試合となってしまった。それにしても長短打を絡めつながら打線と抜けのない守備を備えた奈多サンデーズは脅威的で、さすが去年の覇者と感じた一戦だった。(記事：三友クラブ 駄原孝一郎、写真：大坪和則)



一回表先制のホームを踏む奈多サンデーズ木下選手。



二回裏、唯一の一塁強襲ヒットを放ったレッドの新人鳴村選手。



レッドサンデーズを1安打に抑えた塚本投手。



三回からマウンド上がったレッド鳴村投手。



フルスイングをするレッド土田選手。



元気にチームを盛り上げたレッド三船選手。



HRを打った野々下選手を出迎える奈多サンデーズベンチ。



特大本塁打の奈多サンデーズ野々下選手(左)と二回に本塁打を放った荒口選手(右)。

奈多グラウンド

ブルーマーリンズ (0勝6敗0分) 00000 0 林●一尾田

三苦三球会 (4勝0敗2分) 18001 10 吉留○一藤沢

HR: 渡辺 (三球会) **3BH**: 堺太一 (三球会) **2BH**: 渡辺 (三球会)

一回裏、三球会は4番堺和彦選手のタイムリーにより1点を先制すると、二回裏は、6番堺達也選手からの三連打と、この日の主役・2番渡辺選手のグランドスラムなどにより一挙8点を追加し、試合の主導権を握る。一方、ブルーマーリンズ打線は、ランナーを出すものの吉留投手に要所を締められ、得点を挙げることができず、五回コールドで三苦三球会が勝利を収めた。ブルーマーリンズの林投手は、制球の甘さから二回は大量失点となったが、それ以外は毎回三振を奪うなど、安定したピッチングをしていただけに、メンタル面の克服とブルーマーリンズ打線の復活が勝利の鍵となりそうだ。(記事、写真:新町パイレーツ 石橋登)



なんとかグラウンド整備を終え試合開始。



今後の成長に期待のブルーマーリンズ林投手。



三塁打を放つ三球会3番堺太一選手。



この日二安打の三球会4番堺和彦選手。



ヤッター グランドスラムを放った三球会2番渡辺選手。



「あと一本が出らんの一」とつぶやくブルーマーリンズベンチ。

雁レク7番球場

雁ノ巣ライナース (3勝1敗2分) 1 3 0 6 5 1 5 ○樽野—鳥越

新町ウインズ (0勝5敗1分) 0 0 0 0 0 0 ●早田—城戸

HR : 宇野 (雁ノ巣) **3BH** : 池内 (雁ノ巣) **2BH** : 鳥越 (雁ノ巣)

初回から点を入れる雁ノ巣ライナース。一方、ライナースの樽野投手に3安打完封で抑えられた新町ウインズ。ライナースは三回を除き、毎回得点を取り最終回には宇野選手のHRで試合を決定づけた。新町ウインズは初回、二死二三塁のチャンス进行を逃し、その後チャンスは無く二塁も踏ませてもらえなかった。雁ノ巣ライナースは、相手のワイルドピッチやエラーもあったが猛打で終わってみると15対0の圧勝だった。

(記事 : 奈多フェニックス 西藤圭介、写真 : 今林英二)



ウインズ打線3安打完封に抑えたライナース樽野投手。



四回表、左中間へ三塁打を放つライナース池内選手。



五回表、満塁から右前2点タイムリーのライナース久保田選手。



チェンジアップを得意とするライナース樽野投手。

青松園B

ソルトベイスターズ (2勝3敗1分) 1 0 0 0 0 1 鶴野●、中村 (祐) —酒井

三苦ホーネッツ (6勝0敗0分) 0 1 1 0 2 X 1 3 井手○、矢野—松尾

3BH : 稲葉 (三苦ホ) **2BH** : 広木 (三苦ホ)

三苦ホーネッツは三回2番山崎選手からの攻撃、内野安打で出塁するとすかさず盗塁成功。3番4番も相手エラーと四球で無死満塁とすると、5番広木選手が2点タイムリーを放ち先制。後続もヒットや送りバント、盗塁等でチャンスを作り着実に得点を重ね、何とホーネッツはこの回だけで一挙10点を奪い試合を決めた。先発の井手投手も、初回の1失点のみで安定したピッチングを見せた。最終回には抑えの矢野選手がしっかりまとめ、投打に勝った三苦ホーネッツが13—1と快勝した。(記事 : 三苦フレンズ 肥喜里一征)



1失点で勝ち投手となったホーネッツ井手投手。



ソルトの先発、鶴野投手。



初回送りバントを決めるソルト中村(祐)選手。



送りバントを決めるホーネッツ池間選手。



右中間への2点タイムリーを放つ井手選手。



二塁打を放つホーネッツ広木選手。



果敢に盗塁を決めるホーネッツ山崎選手。



バックホームへ返球するソルトのセンター田中選手。



山崎選手の飛出しをソルト酒井捕手の強肩でアウトに！



守備範囲の広いソルトのショート中村(健)選手。

第10週編集後記

WSLの皆さん、コンニチハ！

雨上がりの6月17日は4試合が行われました。

そのすべてでコールドゲーム。

青松園Aの奈多サンデーズ対レッドサンデーズは、初回から打線の爆発した奈多サンデーズが13-1で勝利しました。奈多サンデーズは2～7番打者がマルチヒットで計16安打に対し、レッドは鳴村選手の内野安打1本で辛うじて2年連続のノーヒットノーランはまぬがれました。

青松園Bのソルトベイスターズ対三苦ホーネッツ戦は、奈多サンデーズと引き分けたソルトに対し、13安打を集め一方的な展開でこちらも13-1でホーネッツが勝利。今年のホーネッツは投打共に隙がないですね。

奈多グラウンドもブルーマーリンズ対三苦三球会戦は、二回に三球会渡辺選手の満塁HRを含む7安打を集め、吉留投手が2試合連続完封の10-0で勝ちました。

雁レク7番球場の雁ノ巣ライナーズ対新町ウインズ戦は、7安打10四死球でライナーズが15点を挙げ、投げたは樽野投手が完封で15-0。

今週は上位チームがその力を発揮し、順当に勝ち星を伸ばしました。

6月24日は4試合です。

	一塁側		三塁側		審判
青松園A	三苦フレンズ	対	奈多フェニックス		ソルトベイスターズ
青松園B	奈多クラブ	対	三友クラブ		奈多サンデーズ
奈多グラ	塩浜ジャガーズ	対	雁ノ巣ライナーズ		新町ウインズ
雁レク6	ブルーマーリンズ	対	新町パイレーツ		レッドサンデーズ(支払い)